

解答

□

- 問一 a 務〔める〕      b 挙〔げる〕      c 慣〔れ〕      d 境      e 制
- 問二 ア
- 問三 イ
- 問四 エ
- 問五 ウ
- 問六 ア
- 問七 ア ムツとした気持ち
- 問八 イ 三好くんが心配そうに自分を見ていること
- 問九 エ
- 問十 イ 冷静な
- 問十一 ウ
- 問十二 ア
- 問十三 エ
- 問十四 イ
- 問十五 ウ
- 問十六 和泉くんとぼくの合作です

□

- 問一 a 芸当    b 上手    c 発揮    d 考察
- 問二 A    B    E    C    ウ
- 問三 ウ
- 問四 炎が見えること / 料理もでき実用的
- 問五 ア×    イ○    ウ○    エ×
- 問六 新たに燃料を消費しません
- 問七 ストープの熱をもっと利用してみたいから。
- 問八 「温度」という枠組みで家全体を考える（こと）
- 問九 技術の方向のちぐはぐさが浮き彫りになります
- 問十 暮らしのサイズにあったサイエンス
- 問十一 体を感じる温度・快適さ
- 問十二 暑かったら扇ぐなど、空気を移動させて感じる涼しさ
- 問十三 温度の移動
- 問十四 暑かったら扇ぐ（こと）

解説

□

問十六 「和泉くんとぼくの合作です」という中西くんの言葉に、「きみ」は、自分は勝負にこだわっていたのに中西くんはちがうことに気づかされ、「負け」を意識します。

□

問十二 次の段落で「下敷きでばたばたと顔や体を扇いで涼しさを感じていたときのこと」とあり、「暑かったら扇ぐ、空気の流れをつくり、温度の移動を起こす」ことが「生活の実感」だったと述べられています。